

〈論文〉

日本語と韓国語の言語景観における禁止表現

—場所による違いを中心に—

金 順 任

キーワード：言語景観, 禁止表現, 敬語形式, 指数化, 脅し表現

1. はじめに

社会のグローバル化が進み、2000年代に入り社会言語学の分野から目に見える言葉、すなわち、「言語景観」に関する研究が多く行われるようになった。しかし、今までの言語景観に関する研究としては日本語の場合は多言語表記に関するもの、韓国語の場合は綴り方の使用実態に関するものがほとんどで、表現自体を対象とした研究はないといっても過言ではない。従って本稿では言語景観としての外的な表記の問題ではなく、内的な言語使用に焦点を当てることにした。

また、言語景観には看板だけが入るわけではなく、行政報告書での多言語化を分析したバックハウス (2009) のように、本稿では不特定多数が目にする街で見かける案内文、貼り紙、道路標示なども広く言語景観として認めて論を進めることにする。具体的には日韓の言語景観から「禁止表現」を収集し、場所の性格による日韓の禁止表現の使用様相の類似点と相違点を明らかにしたい。

2. 先行研究

景観言語学の先駆的な研究として60年代に早くも新宿の看板の言語使用に注目した正井 (1972) によれば当時はローマ字だけの看板は「TEA FOR TWO」という一例しかなかったという。その後表記の西欧化と多言語化が進むようになり、田中他 (2007) によるデパートの多言語使用に関する研究、金美善 (2009) によるコリアンコミュニティにおける多言語使用に関する研究、バックハウス (2004) による行政報告書の多言語使用に関する研究が行われてきた。なお、井上 (2007) は言語景観の多言語化を経済言語学的な観点から解釈し、社会の近代化と言語使用には法則的關係があり、産業高度化と言語の市場価値は比例すると指摘している。すなわち第3次産業が社会で重要になるにつれて言語が重要視され明瞭な市場価値を持つようになり、諸言語の使用順番が市場価値・経済性によって付けられると論じている。

一方、韓国語の場合は綴り方が複雑で一般人の誤用が多いという問題があり、多言語表記に関す

る研究よりは綴り方に関するものが多い (이종열 2010 など)。しかし、日本と同じく表現自体を扱った研究は管見の限り見当たらない。

3. 調査概要

3.1 分析データ

データは2010年5月から11月にかけて、日本は東京を中心とした関東各地、韓国はソウルと大邱で収集した。場所による使用様相の分析の際には場所を公共、商業、民間、病院、公園、道路標識、神社 (韓国の場合は「寺」)、大学の8つに分類した。このような分類に対し、病院が公共施設であるかどうか、公園と神社の区別は有効かどうかという問題も考えられるが、病院とか神社などの特徴があるだろうという仮説の下でこのような分類法を採択した。

研究手順は禁止文句が書かれた案内文、道路標識、貼紙などの写真を撮り、書かれた「禁止表現」の文句をEXCELに入力し、撮影場所や禁止項目の分類、禁止文句の敬語形式や表現形式などに関する分類を行った。データを収集した場所と事例数は表1の通りである。

表1 場所と事例数 (括弧中は%)

	日本語	韓国語
商業	346 (23.1)	149 (14.7)
公共	253 (16.9)	306 (30.3)
民間	222 (14.8)	152 (15.0)
公園	187 (12.5)	190 (18.8)
病院	159 (10.6)	72 (7.1)
大学	117 (7.8)	85 (8.4)
道路標識	110 (7.3)	47 (4.7)
神社	105 (7.0)	10 (1.0)
合計	1,499	1,011

禁止項目は細かく分類すると、約90種にもものぼるが、明瞭な結果の提示のために類似する禁止項目を統合し34個に簡略化した。簡素化するには事例数が10件以下のものや日本語か韓国語の片方にあるものを内容によって統合した。具体的には「車その他」にはスピード出しすぎ、横断、駆け込み乗車などが入り、「その他」には面会、うがい、集会、貼紙、場所取り、座り込みなど、「物の使用」にはソファの使用、出入口の使用、エレベーターの使用などが入る。

全体で日本語は1499件、韓国語は1011件で、上位4位を占めるのは、日本語では「立入 (240件)」「喫煙 (164件)」「駐車 (131件)」「ゴミ投棄 (99件)」で、韓国語では「駐車 (136件)」「立入 (125件)」「ゴミ投棄 (81件)」「喫煙 (64件)」である。

この他に「駐輪」は韓国語に比べ日本語に多いが、これは自転車を多用する日本とそうではない韓国との社会・文化的な違いによるものであると解釈できる。これに対し、韓国語に多い項目としては「駐車」「遊戯」などがある。このような項目の事例数は筆者が意図的に集めたわけではなく、一般的に外部に示される禁止項目の様相の違いであると解釈できる。すなわち、禁止項目の出現率自体も日韓の社会文化的違いであるといえる。

なお、場所による禁止項目の出現をみると、日韓とも公共や商業では「立入」「喫煙」が多くみられ、民間では「駐車」「駐輪」が多くみられた。これは入居者以外の駐車、駐輪に迷惑をかけられた側の意見の表明であるといえる。次に、病院では健康とも関係があるため「喫煙」が多く、道路標識では当然ながら車と関連する「車進入」「駐車」のような禁止項目が多くみられた。

3.2 禁止表現の分類基準

掲示物，案内文のような言語景観というのは，読み手が不特定多数であることを知った上で，書き手が自分の立場を決め，不特定多数に向けて自分の主張を発信するもので，書き手の主張と読み手に対する配慮の配合で表現が決まってくるといえる。本稿では禁止表現を以下の表2のように敬語形式と表現形式，追加情報という3つの観点から細かく分類し分析を行う。

表2 表現形式の分類の観点及び例示

観点	分類	日本語	韓国語
敬語形式	体言止め	図書館資料の持込み禁止	사진촬영 금지 (写真撮影禁止)
	常体	関係者以外の立ち入りを禁ずる	꼭대기에서 걸어 다니거나 뛰지 않는다. (この上を歩き回ったり走らないこと)
	敬体	ホール内は飲食禁止です。	들어가지 마세요. (入らないで下さい)
	最上敬体	禁煙 ご協力お願いします。	교수연구실이오니 조용히 합시다. (教授研究室につき 静かにしましょう)
表現形式	直接的	ソファの利用を禁止します。	주차금지 (駐車禁止)
	間接的	マナーモードに設定の上，通話はご遠慮ください。	잔디를 사랑합시다. (芝生を愛しましょう)
追加情報	理由	バス停に付き 駐車禁止	위험 올라가지 마세요. (危険 上らないでください)
	提案	この袋にくつを入れロッカーにおしまってください	실내화를 신으세요. (신발장에 있어요.) (上履を履いてください(下駄箱にありますよ))
	条件	契約者以外駐輪禁止	관계자외 출입금지 (関係者以外立入禁止)
	願望	おねがい 近づかないでください!	협조부탁드립니다 주차금지 (ご協力お願い申し上げます 駐車禁止)
	脅し	無断駐車は罰金3万円申し受けます	불법주차금지 과태료부과 및 견인 (不法駐車禁止 罰金賦課及び牽引)
	単独	駐輪禁止	노점상 및 취사행위 금지 (露店及び炊事行為禁止)

ここで理解のために実際の掲示物の写真をいくつか提示する。写真の下に書かれた情報は、「場所/禁止項目/敬語形式/表現形式/追加情報」を指す。



(大学/触手/常体/直接的/単独) (民間/駐車/敬体/直接的/脅し)



(商業/喫煙/最上敬体/直接的/脅し・願望)

4. 分析結果

4.1 全体の傾向

まずは日本語の言語景観における禁止表現の様相を全体的に把握するため、場所の違いや禁止項目の違いは無視し、全体の敬語形式の傾向を以下の図1に表した。

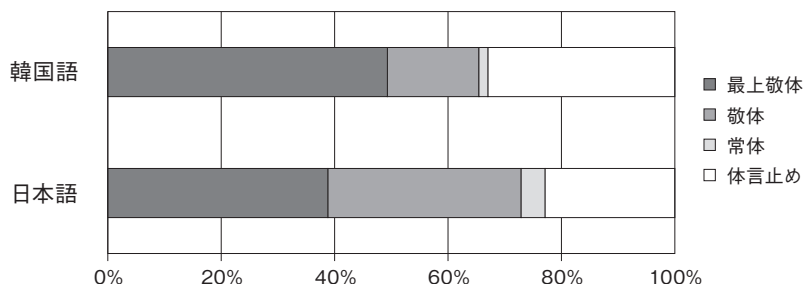


図1 日韓の全体の敬語形式

日本語の場合は「最上敬体」と「敬体」が同程度用いられているが、韓国語の場合は「합니타 hapnita体」の「最上敬体」が多く、「해요 hayyo体」の「敬体」は少ない。その理由としては「해요 hayyo体」は話し言葉で多用される敬体で、禁止表現に用いられる場合、禁止の強度が弱く感じられるためであると思われる。なお、日韓共に「常体」はあまり用いられず、「体言止め」は韓国語でより多く用いられた。

なお、図は省略するが、表現形式の使用様相をみると、日韓共に間接的な表現より直接的な表現が多用された。これは扱っている内容が「禁止」というマイナス的な意味であるため、どうしても直接的な表現がより多く用いられたものと判断される。場所による詳しい分析は次の4.2で扱う。

4.2 場所による違い

上記で全体的な傾向をみたが、ここでは本稿の目的でもある、場所による禁止表現の使用様相をみてみる。まず、表現形式の観点の結果を、次の頁の図2に表した。真ん中の二つの線は日本語の結果で、上下の二つの線は韓国語の結果であるが、日本語より韓国語のほうが直接的表現と間接的表現の使用率の差が大きいことが分かる。すなわち、日韓共に直接的な表現がより多用されているが、間接的な表現との違いは韓国語のほうが大きいことが分かる。

なお、場所による違いをみると、日韓共に公共、商業、公園では直接的表現と間接的表現の差がそれほど大きくないが、民間や神社、大学では直接的表現が間接的表現よりはるかに高いことが分かる。すなわち、日韓共に公共、商業、公園では客や利用者に対する配慮から間接的な禁止表現を多用していることが分かる。

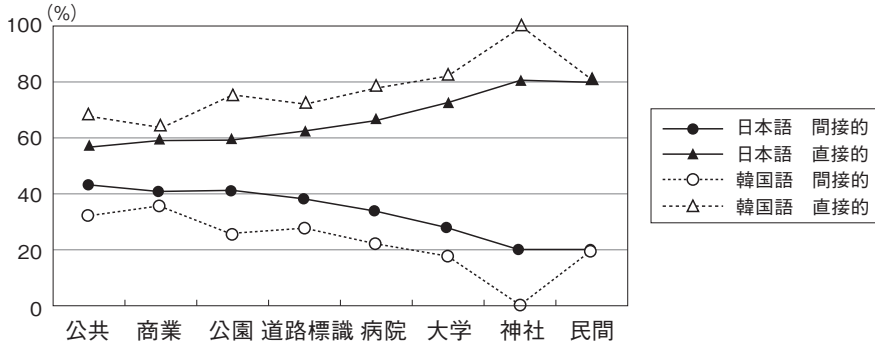


図2 場所による表現形式

次は、どのような文体で禁止を伝えているかという敬語形式の観点からみてみよう。図3と図4に場所別の日韓の敬語形式の違いを表した。なお、場所の提示順は日本語の最上敬体の使用率の順にソートしたものである。

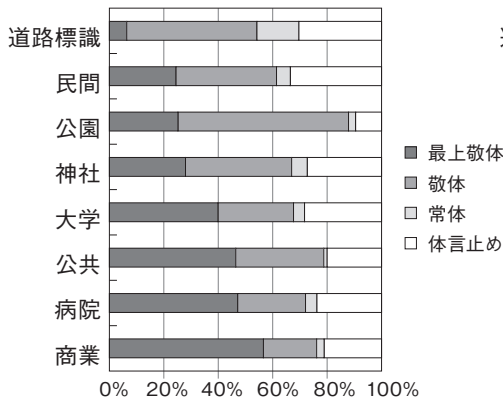


図3 場所による敬語使用（日本語）

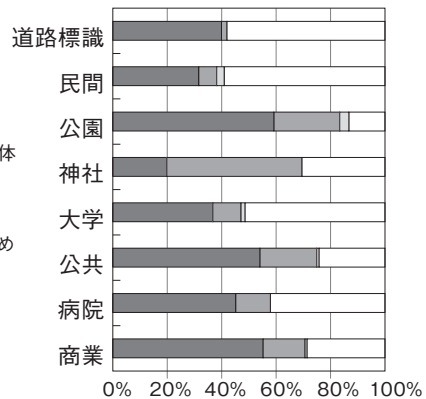


図4 場所による敬語使用（韓国語）

商業、病院、公共では日韓共に「最上敬体」が最も多用されるという共通点がみられた。しかし、公園では日本語は「敬体」が多用され、韓国語は「最上敬体」が多用されるという違いがみられた。韓国語の場合、「敬体」は使用率が低く神社（お寺）で多用されている。しかし、韓国の神社（お寺）の用例数が10例にすぎず、これだけでは一般化した結論を出すことは難しい。

次に、民間や道路標識、大学の場合、日本語では「敬体」が多用されるが、韓国語では「体言止め」が過半数以上用いられている。日本語では「体言止め」は道路標識、民間、大学、神社で他の場所よりわりと多く用いられている。「体言止め」は公園、公共を除き、全体的に韓国語のほうでより多用されている。

上記の二つの図を全体的にみると、日韓共に商業、病院、公共や道路標識、民間では禁止表現の使用様相がかなり違っていることが分かる。すなわち、患者や客にいいサービスを提供することを

理念とする病院や商業、公共施設では読み手をより配慮し、丁寧な表現を使っているが、他人から何らかの形で被害を受け、それを禁止させようとする民間や、瞬間的に禁止という情報を提供しなければいけない道路標識は人に対する配慮があまりなく、比較的「体言止め」が多用されているものと解釈できる。

4.3 敬語形式と表現形式の相関関係

ここでは敬語形式と表現形式の相関関係を調べてみる。8つに分類した各場所間の類似性を探るための分析で、そのため敬語形式（最上敬体）と表現形式（間接的表現）という2つの軸を用い散布図を描いてみた。

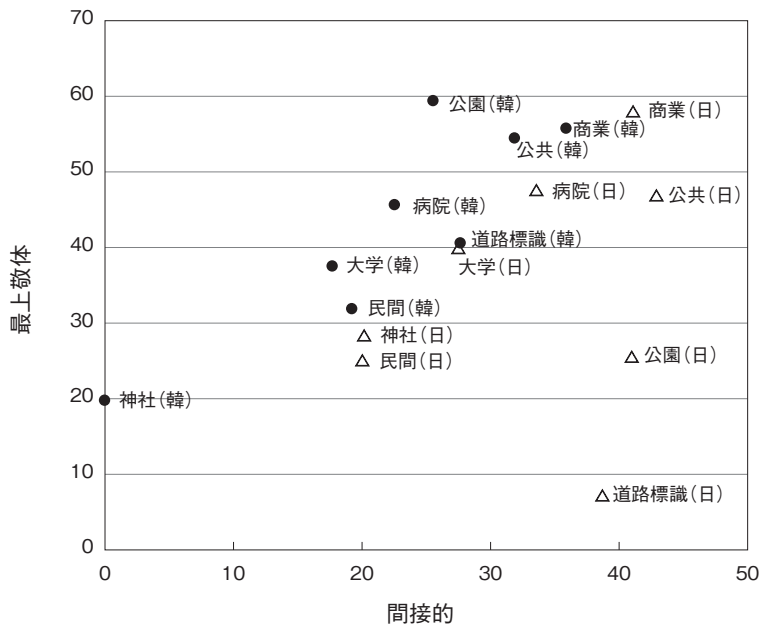


図5 日韓の敬語形式と表現形式の相関関係

上記の図5をみると、日韓共に間接的表現と最上敬体の使用率は大体比例しているといえる。また、斜めに比例線があるとしたら、全体的に日本語のほうは項目が右のほうに位置し、韓国語のほうは項目が左に位置していることが分かる。これは要するに日本語のほうが韓国語に比べ間接的な表現を好むということを示している。

詳しくみると、日本語は商業、病院、公共の性格が類似しており、道路標識や公園の性格が他と異なっていることが分かる。これに対し韓国語は神社（お寺）が他とかけ離れているが、事例数が少なくこれだけで解釈することは無理がある。日韓共に病院と商業は最上敬体も多用し、さらに直接的な表現や間接的な表現も半々程度使われており、客に対する配慮と患者に対する配慮という類似する配慮がこのような結果を導いたものと判断される。

4.4 禁止表現の指数化

ここでは禁止表現の微妙な違いを考慮し、敬語形式、表現形式、追加情報のそれぞれに以下の表3のように指数を与え、場所による禁止表現を指数化し総合的に捉えた。指数は総点を場所や禁止項目の事例数で割って算出した。

指数の与え方を説明すると、常体、直接的表現、単独はベースとして「0点」を与え、マイナス的な意味の「脅し」には「-1点」を、より対人配慮的な表現である間接的表現や敬体、最上敬体には「1点」を与えた。さらに、条件、理由、提案、願望のような追加情報が一つ追加されるたびに1点を加算した。

表3 指数の与え方

	敬語形式	表現形式	追加情報
-1点			脅し
0点	体言止め 常体	直接的	単独
1点	敬体	間接的	条件, 理由, 提案, 願望
2点	最上敬体		

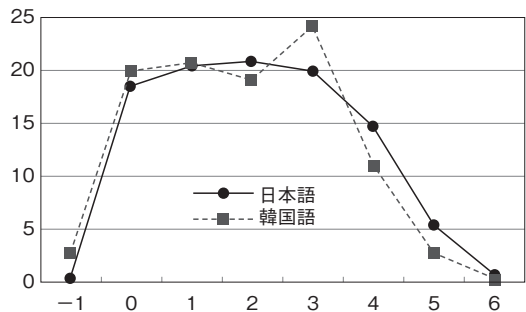


図6 各指数の割合

上記の図6は全体における各指数が占める割合を表したものである。日韓の指数の幅は-1点から6点の間で、日韓共に0点から3点が多く、4点以上と-1点は少なかった。日韓の違いとしては、3点が日本語より韓国語において多く、4点と5点は日本語のほうが多く、日本語のほうが高い指数の事例が多かった。なお、日本語は最低1.26から最高3.06で、平均指数が2.15で、これに対し韓国語は最低1.21から最高3.11で平均指数は2.02であった。

次は図7の各場所の平均指数をみてみよう。

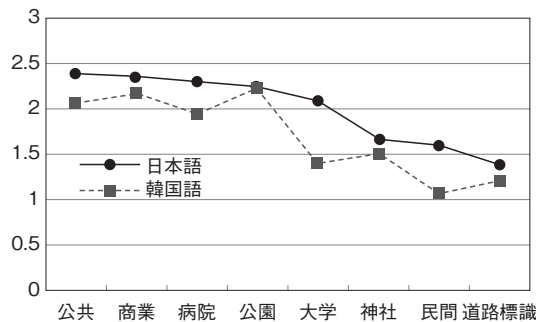


図7 禁止表現の指数化

上記の図7をみると、全体的に日本語のほうが全ての場所で指数が高いことが分かる。これには様々な要因が働いたといえるが、特に間接的な表現の多用と追加情報の多用が大きく影響したものである。なお、全体的に日韓共に公共、商業、病院、公園は指数が比較的高く、道路標識、民間、神社は指数が比較的低いことが分かる。これは前述したように、場所によって対人配慮の程度が変わってくることを意味し、このような目に見えない内面的なものが、目に見える形として禁止表現にそのまま投影されたものだといえる。また、大学や民間の指数の差という、日韓の細かい相違点がみられるものの、場所によって禁止表現の使用様相が変わってくるという全体的な傾向は日韓で一致していることがこの図から分かる。

4.5 日韓の禁止表現における「脅し表現」

ここでは日韓の特徴的な傾向の一つとして禁止表現に用いられた「脅し表現」についてみることにする。本稿では椎名（2005）にならい、禁止事項を従わなかった場合に何らかの脅しや罰を示す表現が明記されたものを「脅し表現」として定義する。本稿で扱う「脅し表現」は以下のようなものである。

例1) 北村大駐車場 無断駐車は罰金3万円申し受けます。

例2) 주정차금지 이곳에 주정차하시면 주차단속 및 견인의 대상이 됩니다.

(駐停車禁止 ここに駐停車すると駐車取締及び牽引の対象になります。)

「脅し表現」は、日本語は113例（7.5%）、韓国語は221例（21.9%）得られた。禁止項目としては駐車、駐輪、ゴミ投棄などで多くみられた。「駐輪」の場合は、指定された場所以外に駐輪すると撤去されるという脅しがほとんどで、「駐車」の場合は、上記の例のように罰金を取られるという表現が多かった。以下の図8は日韓の場所による「脅し表現」の使用率である。

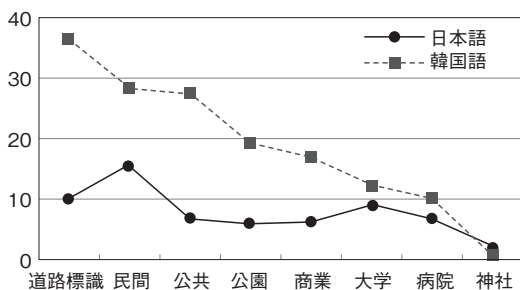


図8 場所による「脅し表現」の使用率

上記の図8は韓国語の「脅し表現」の出現率の順にソートしたものであるが、すべての場所で日本語より韓国語のほうが脅し表現を多用していた。また、日韓共に道路標識と民間で最も多用され

た。韓国語の「道路標識」の場合36%も使われていて10%の日本語と大きな違いが認められた。

また、「民間」でも脅し表現が他の場所に比べ多用されていたが、これは書き手と全く関係のない不特定の他人による迷惑行為に対し、邪魔されたくないという強い意志の表われであると解釈できる。このことから韓国語のほうが、日本語より強い表現を用いながら禁止を警告していることが分かった。

5. まとめと今後の課題

以上で日韓の言語景観における禁止表現を分析対象とし、場所による敬語形式の違い、表現形式の違い、及び敬語形式と表現形式の相関関係などについて考察した。また、様々な禁止表現の違いを目立たせるために、各分析要因に指数を与え、禁止表現の指数を求め、場所間の位置づけに関する考察も試みた。

分析の結果、「病院」と「商業」が類似していたが、それは患者と客に対する配慮が働いた結果であると解釈できる。さらに、「道路標識」は瞬間的に禁止という情報を伝えなければいけないため、体言止めや直接的な表現が多用され、「民間」の場合は通りがかる人々に恩恵や配慮をしても戻ってくる利益がないため、彼らに対する配慮が排除されたものと解釈できる。さらに全ての場所において、日本語に比べ韓国語のほうが「脅し表現」を多用しており、韓国語のほうがより直接的で強力的な言い方を用い、禁止を訴えていることが分かった。これは一般に日本人は直接的で断言的な表現を好まないという、文化的背景の発露でもあり、既存の日韓のポライトネス理論研究から指摘された結果とも合致するものであるといえる。

今回、研究材料とした外部に示された案内文や掲示物は、読み手に対する書き手の意思の発露である。読み手がどのように思っているかがその文句に表われているわけで、これも立派な言語行動の一つであるということが出来る。さらにデパートのような商業施設では案内文や掲示物が美的なデザインとして、すなわち言語景観としての役割も十分果たしているため、今後も景観言語学として様々な言語行動に関する研究が行われるべきであると思われる。

謝 辞

本稿の執筆において明海大学の井上史雄先生や山下暁美先生には、貴重なご教示を賜りました。心から感謝の気持ちを申し上げます。

参考文献

- 井上史雄 (2001)『日本語は生き残れるか—経済言語学の視点から』PHP新書
井上史雄 (2007)「多言語表示の経済原理」『社会言語科学会 第20回大会発表論文集』社会言語科学会, pp.255-256.
井上史雄 (2009a)「日本の多言語景観：デパートと歓迎ポスター」『明海日本語』14, 明海大学日本語学会, pp.99-100.
井上史雄 (2009b)「経済言語学からみた言語景観 - 過去と現在」『日本の言語景観』三元社, pp.53-78.

- 岸江信介 (2009)「四国方言における禁止表現と禁止言語行動」『方言研究の前衛』桂書房, pp.29-46.
- 金美善 (2009)「言語景観における移民言語のあらわれかた - コリアンコミュニティの言語変容を事例に」『日本の言語景観』三元社, pp.187-205.
- 椎名渉子 (2005)「子守歌における『おどし表現』と『甘やかし表現』」『月刊言語』34-5, 大修館書店, pp.82-89.
- 庄司博史他 (2009)『日本の言語景観』三元社
- 染谷裕子 (2002)「看板の文字表記」『現代日本語講座6 文字・表記』明治書院, pp.221-243.
- 田中ゆかり他 (2007)「東京圏の言語的多様性—東京圏デパート言語景観調査から」『社会言語科学』10-1, 社会言語科学会, pp.5-17.
- バックハウス・ベート (2004)「『内なる国際化』: 東京都の言語サービス」『自治体の言語サービス - 多言語社会の扉がひらく』春風社, pp.37-53.
- 牧野由紀子 (2008)「行為指示談話における直接形式の使用-自治会活動での一事例」『日本語科学』24, 国立国語研究所, pp.5-29.
- 正井泰夫 (1972)『東京の生活地図』時事通信社
- ロング・ダニエル (2010)「奄美ことばの言語景観」『東アジア内海の環境と文化』桂書房, pp.174-200.
- 梁敏鎬 (2010)「日本と韓国の言語景観に関する事例研究—公共施設のトイレとゴミ箱の表記について」『日本語文学』44, 韓国日本語文学会
- 이종열 (2010)「간판 언어에 나타난 우리말의 표기 실태 연구-대구 동성로 일대 옥외 광고물을 중심으로 (看板言語に現れた韓国語の表記実態研究)」『한국어 의미학』31, 한국어의미학회
- 홍민표 (2006)「日本における看板言語の表記実態」『日本語文学』32輯, 韓国日本語文学会